関大
発行所
関西大学校友会
吹田市山手町3丁目3番35号
発行人　神屋敷民蔵
電話大阪(388)1121代表
振替口座大阪55594番

# 明るく楽しい祭典に

## 校友総会を迎えて

校友会長　樫本信雄

毎年一回開催される校友会の、定時総会は、いわば校友会の祭典である。

この総会では、前年度の総会以降の会務報告が行われるが、その他は会員の親睦が目的である。そして串に、会員はかりでなく家族の同伴も歓迎されている。久し振りに顔を合わせて、お互いの健康を祝し、学生時代の思い出話しに花を咲かせるのもよいで。仕事の上での苦労話し、手柄話しもよいであろう、恩師や先輩との歓談もたのしいものである。明るく楽しいひとときを過ごすところに、総会の意義がある。ところが、昨年は代議員の改選もあって、一高体育館での総会は、校友会の祭典としては、多少縁遠い感じがあった。本年は役員も改選され、新熱干部としては、第一回目の総会であり、二年後には母校創立九十周年を迎えるので、それまでに校友会は一層盛りあがりの必要があるため、この総会は校友会の祭典に公さわしいものにしなければならぬ、という意欲に燃えて、その準備を進めて来たのである。

久井理事長からは、母校の近況もうかがわれるであろうし、学長の任期満了によって、法学部の明石三郎教授が、新学長に就任されたので、総会では、学長としての抱負を述べられるであろう。明石学長は、昭和二十二年母校の教授になられたが、温厚な人柄で、大学運営の行り方についても、積極的な意見を持っておられるようだし、昭和四十四年には、学長事務代行として、大学紛争の処理に献身的に尽力された方であるから、必ず学長として、その手腕と力量を発揮されるであろうと思われる。

なお、広瀬前学長は、一年間学長代行、三年間学長を勤められたが、校友でもある関係から、校友会の本部、または支部の会合には常に出席されて、校友と母校との緊密化に努力下さったのである。私共は、ここに広瀬前学長に対し、心から敬意と感謝の意を表したい。

校友会は、会員の慶弔を相共にするを旨としているが、この総会においても、昨年秋の石本雅男先生外五名、本年春の中谷敬寿先生外八名の叙勲の栄に浴された諸先生に対し、心から祝意を表したい。これに反し、この間に不幸にして物故された校友諸氏に対しては、謹んで哀悼の意を表し、そのご冥福をお祈りする次第である。

校友会は、これまで総会において、優秀な地域支部や、支部の功労者に対し、感謝状を贈っているが、本年は、同期会、各種団体についても、その業績をたたえ、感謝状を贈ることにした。会務報告の中にもあるが、校友会は、母校創立九十周年に先だち、校友会が昭和四十一年以降、機関紙「関大」に、横田健一、薗田香融両教授の執筆による「関西大学を築いた人々」を掲載して、好評を博してきたが、これを集録し、単行本として発刊したのである。校友会の刊行物としては、校友名簿を除けば最初のものである。校友会は総会において、横田、薗田両教授に対し、感謝状を贈り多年のご尽力を謝したい考えである。

本書は、母校の建学の精神をうかがうに足り、また輝かしい伝統と学風の根源を知るに役立つものと思われる。私は、本書を学園関係者、校友はもとより、一般の方々にも推奨したい。

なお、この総会のために、校友小野栄一君（鶴田浩二）が多忙な時間を特に割愛して、アトラクションに出演して下さることになっているが、その好意を校友の皆さんと共に感謝したい。

終わりに、この総会を楽しくするための福引について、金員または品を寄贈して下さった方々並に、総会開催について、長い間その準備等に努力された執行部の諸君、校友会事務局員、更に、替助出演を願う母校応援団吹奏楽部の学生諸君に対し、感謝の意を表し、この総会が有意義に終することを祈念する次第である。

樫本会長

(心斎橋店・京橋店)
コンタクトレンズ
メガネ
大学堂
心斎橋店(271)7891
京橋店(353)2419
虹のまち店(213)1650
阪神百貨店(345)1201

# 学長に就任して

明石三郎

私はこのたびはからずも学長の要職をけがすことになりました。私にとってはもとより荷にすぎるところでありますが、多数の方々の意志を尊重してお引受けした次第です。幸いにして側近の方々に優秀な適任者をえることができましたので、この方々のご協力によって大任を果たすことができようかと考えています。

私は二十二年に教授就任以来、本学の学風が私の体質に極めてふさわしいものであったことを心から感謝しています。そして爾来めざましい発展をとげた本学の現状に対し心から快哉を叫んでいる者の一人でありますが、今まで野に在った私がここに学長職につくに及んで、更めてその重責のほどを痛感している次第です。ただ誠意をもって大任に当たりたい覚悟であります。

思えば昭和五〇年はわが関西大学創立九〇周年に相当するのであるが、今また一つの反省の時期に達したものと考えます。徒らに古き伝統の上にあぐらをかくの愚をしてはならないでしょう。古き皮袋に新しい酒を盛らねばならないと考えます。その新しい酒とは何であろうか。先ず清新なるアカデミズムの精神でなければならないと思います。過ぐる四年前の紛争による精神的荒廃の爪跡は、徐々に回復してはいるものの、未だ完治の域に達していないように考えられます。われわれは勇を鼓し、大学のあるべき姿を再認識して、研究と教育への意欲を燃やさねばならないと反省している次第であります。またそのためには物的・人的施設の面においてもその整備を必要とします。これらには財政的基礎がなければなりません。理事会の協力を必要と致しますが、特に校友諸氏の絶大なるご協力を望んでやみません。

つぎに学生の心身の昂揚のためには、体育の向上をはかるべきだと考えます。スポーツの隆昌は一朝一夕にはなく、真のスポーツないしその精神の昂揚を望むものです。またこれが体育学部や体育推薦を推進する意味でもありません。学生スポーツとしてのあるべき姿の上に立って、その隆昌を願うものであります。スポーツによって涵養される体力、フェアプレーの精神、質実剛健の気風は自ら学生全般の志気をも昂揚することになりましょう。

明石三郎

# 研究と教育に意欲

## 清新なアカデミズム精神で

つぎに大学改革は今後いかにこれをすすめるべきかについては、なお考慮中でありますが、学部長会議その他において審議してもらいたいと考えています。大学改革に関する委員会は二回の答申をおこなったまま解散した形となっており、それが私に引きつがれたわけでありまして、これをいかに取扱うべきかは慎重に検討の必要があるものと考えます。

なお部落差別の問題は、現下の国民的課題であり、本学においても本格的に取組むべきものであります。この点については、すでに部落問題委員会を設け、啓蒙のための講演会を開催するほか、教科・教育面でも検討を重ねてまいりましたが、今後なお積極的な努力を続けたいと考えております。

本来「人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」という民主主義の理念が、過去必らずしも十分な実現をみていなかった事実を、われわれは深く反省すると共に、人間愛に根ざした真の教育を目指して進むことが肝要だと考えます。

最後に学生の自治組織の再建を望んでやみません。第一部で自治組織が失われて四年に及ぶわけですが、統一的学友会がなく、大学祭などの統一的行事がおこなわれなくなって久しいわけです。学生諸君の自覚を促したいと思います。

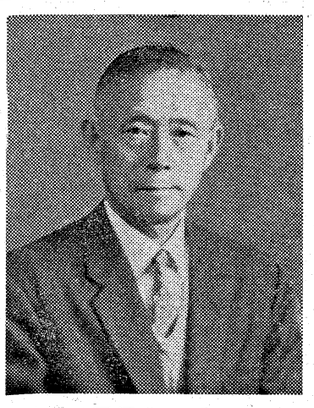
# お時間拝借

## 校友あれこれ対談

—23—

聞き手　吉田三七雄

### 日本バドミントン協会顧問　石渡俊一氏


石渡俊一氏

**吉田**　先日、中国からバドミントンの選手団がやってきたときは日本バドミントン協会の顧問として、また近畿協会の会長として、いろいろご苦労さんでした。随分気を使われたでしょ？

**石渡**　別に気を使うということはありませんでした。根がいたってノンキなたちやから。（笑い）

**吉田**　中国はバドミントンも、えらく強いじゃないですか。

**石渡**　強いねえ。中国の男子が強いということは前から分っていたんだが、女子はまあ日本が勝てるだろうと思っていたんだ。それがなんと、男女とも遠征の中国に負けてしまった。バドミントンの羽根はアヒルとかガチョウの羽根で作るわけで、中国がこの羽根の本場だが、その羽根の本場だけあって、技術も大変なものですよ。

**吉田**　見ただけでは、中国の選手も日本の選手も、身体つきはあまり違わない。いや、女子選手は日本の方がいい体格をしているように思いますが。

**石渡**　外見だけでは同じように見えるけど、やっぱり体力の点では日本は負けるねえ。

**吉田**　食べもんが違う。（笑い）

**石渡**　それもあるけど、バドミントンの選手が重量挙げの練習をやっているのには驚いた。

**吉田**　重量挙げ？

**石渡**　うん、重量挙げで手首と足腰を鍛えるんだよ。それから、これはちょっとした発見だが、同じような身体つきだが、中国人と日本人では違っているところのあるのに気がついた。

**吉田**　いったい、どこが違っているんです？

**石渡**　日本選手も中国選手も足の長さは同じなんだが、中国選手は膝から先が日本選手より長い。膝から先が長いということは、それだけ前後左右どちらへでも歩幅が多く出る。つまり、動きがそれだけ早いというわけやねえ。

## スポーツ　全課目を卒業

## 若いもんにはまだ負けん

**吉田**　なるほど。これは、ちょっとした どころか、大発見や。（笑い）ところで、今後の日本のバドミントン界はどうなります？

**石渡**　こんどの日中バドミントン試合で、日本の実力の限界がよく分った。だから、これからは高校生以下の年少者から鍛えていく必要があるのやないかなあ。これはバドミントンだけやなく、すべてのスポーツにいえることやと思うなあ。

**吉田**　ところで、えらい妙な質問になりますが、石渡さんはスポーツの中でどれが本職なんです？

**石渡**　いや、本職というとおかしいかも知れませんが、あんまりスポーツ全般にわたって有名やから、どれが お得意や分らんのです。

**吉田**　体育大学みたいな学校ですねえ。

**石渡**　まさにその通り。陸上競技はもとより、サッカー、フットボール、バレー、バスケット、テニス、野球、水泳、スキーから、ルドカレッジへ留学しました。男子ばかりの気性の荒い学校で、ここで四年間あらゆるスポーツをやらされました。

**吉田**　なんでもやったんですね。

**石渡**　みんなからよく聞かれますが、つまり、なんでも屋ということです。（笑い）中学時代から陸上をやっていて、関大へ入学してからも陸上部に籍を置き、同期の岸 源左衛門君と一緒に走っていました。関大を卒業してからもスポーツがやりたくて、米国マサチューセッスのスプリング・フィールドカレッジへ留学しました。男子ばかりの気性の荒い学校で、ここで四年間あらゆるスポーツをやらされました。

**吉田**　体育大学みたいな学校ですねえ。

**石渡**　まさにその通り。陸上競技はもとより、サッカー、フットボール、バレー、バスケット、テニス、野球、水泳、スキーから、ボクシング、レスリング、なんでもやらんことには卒業出来んという学校です。

**吉田**　それをみんなやってのけたというわけですか？

**石渡**　その一つ一つをマスターして点をとらんことには進学も出来ん、卒業も出来んわけや。そやから、死物狂いでガン張った。

**吉田**　まさに死物狂いや（笑い）

**石渡**　なんとかガン張り抜いて卒業したんだが、それから一年半の間、ニューヨークの大学院で勉強して帰国しました。それから神戸のYMCAや神戸女学院で先生をしているうちに、関西学院大学から口がかかって体育主事をやっていたんです。ところが戦争や。飛んだり跳ねたりすることより、軍事訓練が大事やということで体育の先生をやめて、家でぶらぶらしているうちに終戦。それから朝日新聞の運動部に入ってスポーツ記者になったというわけです。

**吉田**　その頃は、わたしも朝日の社会部記者だったからよく知っていますが、石渡さんは、ほんとうにスマートな老記者やった。

**石渡**　老記者だけは余計なこっちゃ！（笑い）

**吉田**　こらすみません。（笑い）

**石渡**　朝日新聞在社中に関大体育課の講師をしていたこともあったが、今は金蘭短大で、若いきれいな女の子を相手に、大いに張り切って楽しんでます。

**吉田**　まことに、うらやましいことでございます。（笑い）関西テレビの「ハイ土曜日です」でも若いマダムや、おばあちゃん、奥さんを相手に、元気なところを見せてられますねえ。

**石渡**　あれはもう四年つづいています。今年で満七十一やけど、まだまだ若いもんには負けまへんでえ。（笑い）

**吉田**　その若いもんですが、今の若い時代について、どうお考えになっています？

**石渡**　みんなしっかりしているねえ。それと同時に、今の若い人たちは、らくしすぎているよ。もっと自分自身が苦しまないことにはほんとうの楽しみというものが分らんのじゃないかなあ…。

**吉田**　なかなか手きびしいお言葉ですねえ。しかし、全くその通りだと思います。われわれ若いもんは、これからもっと苦しみます（笑い）石渡さんも若いもんに負けずにガン張って下さい。

**石渡**　言われんでもガン張りますよ。ぼくもまだ若いんだから、あんまり年寄りあつかいせんといてくれよ。（笑い）

**吉田**　いやどうも。（笑い）

**石渡俊一**（いしわたり・しゅんいち）昭和二年大経卒、金蘭短期大学教授、日本バドミントン協会顧問、同近畿協会々長、西宮市スポーツ振興審議会々長

# 「関西大学を築いた人々」

## 教育・経営に尽した54名収載刊行

明治十九年、児島惟謙先生ら数氏の先覚者によって、関西で唯一の法律学校として創立された母校関西大学は、夜間授業の寺子屋から今日の総合大学に発展し、二年後には創立九十周年を迎えようとしている。しかし、その道程は決して坦々たるものではなく、筆舌につくしがたい生みの悩みから成長への苦難があった。

機関紙〝関大〟では、創立当時から教育に、経営に、関西大学発展のため献身的な努力を払われた人々の業績や人となりを、文学部の横田健一、薗田香融両教授らの執筆によって、「関西大学を築いた人々」と題し、昭和四十一年九月（本紙第一三七号）から本年三月（第一〇八号）まで毎月掲載し好評を博した

校友会では、これを一冊の本にまとめるため、「関西大学を築いた人々」編纂委員会を設置して、作業を進めていたが、創立期、守成期、発展期、飛躍期と現代の四期に篇を分ち、五十四名を収載して、このたび刊行した。

A5判三〇〇頁、布クロース装函入上製、頒価一、〇〇〇円、〒一四〇円、

申込先、吹田市千里山　関西大学会館内、関西大学校友会　振替口座大阪五五五九四番

# 新学部長ら決まる

前号既報のとおり、新学長に明石三郎教授（法学部）が選ばれ、十月一日より第二十八代学長に就任したが、他の役職者も次のように新しく決まった。

教学部長　広田　司朗教授
学生部長　沢井　裕教授
就職部長　本庄　良邦教授
教学部長代理　大庭　脩教授
学生部長代理　森井　暁助教授

▽広田司朗教学部長
昭23　京都大学農学部農林経済学科卒業
大正一四年一一月二〇日生
昭25　山口大学助手
昭27　同講師
昭31　関西大学助教授
昭38　同教授

▽沢井　裕学生部長
昭和五年二月一五日生
昭30　大阪大学法学部卒業
昭32　同大学院法学研究科修士課程修了
昭32　関西大学助手
昭35　同専任講師
昭38　同助教授
昭44　同教授

▽本庄良邦就職部長
大正一三年一二月一一日生
昭24　京都大学文学部哲学科卒業
昭26　西山短期大学講師
昭26　鹿児島大学助手
昭27　同専任講師
昭30　関西大学専任講師
昭32　同助教授
昭38　同教授

社会学部長代理等歴任

なお、その他の人事異動は次のとおり。

経済学部長　高本　昇教授
同代理　上田　昭三教授
商学部長　木村　滋教授
同代理　高柳　龍芳教授
経済政治研究所長　高木　秀玄教授
大学院法学研究科長　中　義勝教授
同商学研究科長　亀井　利明教授
同社会学研究科長　雀部　猛利教授

▽高本　昇経済学部長
大正一五年二月二六日生
昭23　関西大学専門部二部経済科修了
昭27　同経済学部卒業
昭31　同助手
昭31　同専任講師
昭34　同助教授
昭41　同教授
経済学部長代行代理等歴任

▽木村　滋商学部長
昭24　昭和二年四月一九日生
昭28　神戸経済大学予科修了
昭30　神戸大学大学院経済学研究科修了
昭32　同経済学部卒業
昭33　同博士課程修了
昭33　関西大学専任講師
昭36　同助教授
昭43　同教授
学生部長代行代理等歴任　経済学博士

▽高木秀玄経済政治研究所長
大正五年一〇月三〇日生
昭11　関西大学第二予科修了
昭16　同経商学部経済学科卒業
昭18　同講師
昭18　同助教授
昭22　同教授（専門部）
昭23　同教授（新制大学）
学生部長　経済学部長等歴任
経済学博士

広田教学部長

沢井学生部長

本庄就職部長

高本経済学部長

木村商学部長

# 12団体、4氏に感謝状

## 校友総会具体案決る

昭和四十八年度校友総会は、十月十四日　午前十一時半から、大阪網島の〝太閤園〟で開かれる。

本年度は、恒例の本部ならびに母校の近況報告のほか、感謝状は前年度に引続き基準に該当する地域・職域・個人功労に加えて、新たに同期会、各種団体についても贈ることになった。

本年度総会の準備経過を検討する常議員会は十月一日持たれ、総会に備えその最終案を審議決定した。

主なる事項は次の通りである。

【総会次第】
▽第一部総会
開会　11・30
学歌斉唱　11・30～11・35
校友会長挨拶（叙勲受章者に対する祝辞）　11・35～11・50
会務報告　11・50～11・55
母校近況報告　11・55～12・15
感謝状贈呈　12・15～12・45
閉会　12・45
◇第二部懇親会
開会　13・00
開宴　13・00～13・30
福引　13・30～14・00
道遠歌斉唱　14・00～15・00
万才三唱　15・10
閉宴
※校友小野栄一（芸名鶴田浩二）氏賛助出演
※関西大学応援団吹奏楽部賛助出演
【感謝状を贈る組織並に功労者】
▽地域支部　大阪西支部
▽同期会
昭三会（昭3専）尚志会（昭13専）
昭八会（昭6大）祥久会（昭9大）
昭八会（昭6大）
秋会（昭14大）十七会（昭17大）
千里山十八会（昭18大）
▽各種団体
関西大学年輪会
関西大学手成会
▽功労者　谷口隆佳（宝塚支部長）中沢俊雄（近鉄支部長）横田健一（文学部教授）薗田香融（文学部教授）

# 行事と集い

- **矢口孝次郎先生古稀記念祝賀会**　10月21日（日）午後5時　網島〝太閤園〟
- **五十経会35周年記念例会**　10月23日（火）午後6時　大阪阿倍野〝料飲学院〟
- **昭八会卒業40周年記念祝賀総会**　10月25日（木）午後6時　〝箕面観光ホテル〟
- **昭三会懇親会**　10月27日（土）～28日（日）　榊原温泉〝清少納言〟
- **千里山十八会卒業30周年記念祝賀総会**　10月28日（日）午前10時半　〝関大会館〟
- **伊丹支部総会**　10月28日（日）午後2時　阪急伊丹駅前ジャスコ9階〝金陽閣〟
- **寝屋川支部設立総会**　11月2日午後6時　〝新寝屋川荘〟
- **大阪西支部総会**　11月7日（水）午後6時15分　南地〝鳥よし〟
- **東京支部秋季総会**　11月16日（金）午後6時　港区大門〝郵便貯金会館〟



## 葦の雫

錦秋の候となり、年一回の校友総会がにぎにぎしく、おなじみの大阪の名園、太閤園で開催せられる。この総会において組織拡充の功労で一四の団体の表彰が行われるのは、校友各位と共にご同慶にたえず、各位のたえまざる努力を可としたい。特に遠隔の支部校友の動静は、常々、我々の関心の的となっている▼さて筆者は先日、韓国の支部を訪ね、本学学生による海外調査研究会の諸君が大へんお世話になったことを聞き、恐縮すると同時にお礼を申上げたい。また本学の招請により韓国の釜山、成均館、嶺南の三大学の剣道部を迎えての交歓試合が行われ、その歓迎レセプションには、校友有志も多数参加し大変盛大であった。今日の日韓の問題を乗りこえて、隣国であり、兄弟である両国は、あくまで友交関係になければならない▼歴史をかえりみて、六四五年の中大兄皇子による大化の改新も、韓国より文物を頂きものしたその儀式の最中に、クーデターはなされた。そして蘇我一族は亡び、天皇家による統一国家が成立した。今日我が国は土地問題で困っているが、経済史上空前の土地国有が行われ、いわゆる公地公民ということで、成人男子は二段、女子はその三分の二の配分となり、一家は大体、五段百姓となったといわれている。また百済の支援要請に応じて、五万人の軍船を出し、白村江に全滅した。時に六六三年であり、この白村江とは錦江の流れる都山の付近であるといわれている。そして多くの日韓の交流が行われ、その技術によって高松塚も出来上った▼かくして日本の建国の時代において両国は密切であった。勿論その数十年先の聖徳太子の時代においても三韓と交流はあった。更に有史以前の数千年、朝鮮海峡を自由に往復する時代もあったと思われる▼日本のある作家が韓国の人に「あなたは新羅ですか百済ですか」と質問した所「あなたは源氏ですか、平家ですか」と反問された。……筆のお遊びは終えて、母校の創立九〇周年をひかえて組織部を中心に新しく加わる校友を迎え、一層の組織の強化が行われるよう要望したい

プレゼントのお考えはきまりましたか
サイフ・ハンドバック・カバン専門卸
GIFT　贈答好適
ビジネスバッグ・旅行カバン
ご一報者にカタログ急送
K.K廣島屋本店
取締役社長　蔵田廣造
(昭和25年　経済学部卒)
〒541　大阪市東区博労町1—26
TEL 06—261—2431

優待証　関大
校友、在学生、又は校友紹介の方は左の優待証を切り取り持参下さい。授業料割引きの特典あり。

運転免許は校友がお世話する
〝大阪城東の〟
公安委員会指定
都島自動車教習所
大阪市城東区別所町157
〒536　TEL(06)912—7171
担当　太田清太郎(昭29.学2法)

取扱品目
各種高圧ガス　カーバイド　高圧ガス容器・バルブ　ガス溶断機・工作機　溶接棒・鋼線材　各種溶接機　産業機械　安全保護具　消火器・消火剤　化学薬品
製造品目
高純度水素ガス（供給能力　月150万㎥）
溶接機材　産業機械　総合商社
丸由工材株式会社
取締役社長　澤田勇夫
（校友会東京支部長）
本社　東京都中央区日本橋小舟町1—8　電(662)2361(大代表)
江東営業所　東京都江東区大島5—34—13　電(683)6511(代)
江戸川営業所　東京都江戸川区中央3—19—1　電(654)6121(代)
蒲田営業所　東京都大田区西糀谷4—32—13　電(742)1491(代)
北千葉営業所　千葉県千葉市犢橋町字新道1664—4　電0472(59)2224(代)
津営業所　三重県津市八町3—4—9　電0592(27)1992(代)
太田営業所　群馬県太田市新島町206　電0276(45)8957(代)
白井出張所　千葉県印旛郡白井町中字古名内98—18　電0474(92)0841
東邦出張所　千葉県東葛飾郡浦安町猫実字砂田1058　電0473(57)6933
旭水素工場　東京都荒川区東尾久7—4—8　電(895)1181(代)
川崎水素充填所　神奈川県川崎市浮島町　セントラル化学㈱川崎工場内　電044(27)3868(代)

電子技術で未来をひらく　松下通信工業
安全で快適な生活をになう——！
ナショナル住宅総合インターホン
1台5役の働きもの
ナショナル住宅総合インターホンは、訪問者と通話ができる玄関電話、風呂の水位や温度・漏水を感知する風呂センサ、屋外への非常警報、異常高温や火災を感知する定温式スポット型感知器、窓やドアからの不法侵入者をとらえる防犯・キースイッチなど、近代生活には欠かせない機能を備えています。
●VL-140（主装置・ドアホン子機・風呂センサ）¥29,800
●火災感知器・防犯/キースイッチ・非常押ボタン等は別途ご用意いただきます。（松下電工製）
●お問い合わせは……
ナショナルインターホン販売(株)
大阪市都島区中野町3-8-14　☎352-2171
神戸営業所　神戸市葺合区御幸通2-6　〒651　電話(078)231-6141
松下通信

配管材料　TRADE MARK EVEREST　総合問屋
指定問屋　東洋バルヴ株式会社
指定代理店　株式会社北沢バルブ
代理店　株式会社北斗バルブ製作所
株式会社イズミ製作所
株式会社吉田バルブ製作所
中鶴バルブ工業株式会社
株式会社田渕製作所
佐野鉄工株式会社
アロン化成株式会社
特約販売店　住友金属工業株式会社
日立金属株式会社
アメリカコーラー社
江守バルブ株式会社
専務取締役　江守和一（昭和41学1法）
本社・大阪市西区立売堀北通4丁目51番地
〒550　☎大阪(06)(532)6321代表
出張所・新居浜・鹿島・大分・高岡・福岡・鹿児島

カタノヨイ　カタノコラヌ　カタノクズレヌ　カタノ洋服店
最高のおくりもの　カタノ紳士服
片野洋服店
大阪市東区北浜三丁目北浜通
電話大阪(231)〇五六五—七
大阪駅前店　第一生命ビル　専門大店
電話　大阪(341)〇七九二
上六近鉄百貨店紳士服サロン　テーラーカタノ

# 北から・南から　各地支部だより

## バス2台で母校見学
### 愛知支部　関大会館で総会

校友会愛知支部では、十月十日の体育の日に、家族づれで母校訪問の計画を、半年まえからたてて準備をすすめてきた。

この日、さわやかな秋晴れの好天気に恵まれ、名古屋駅前「名鉄メルサ」に集まった一行八十五名は、遊覧バス二台に分乗して八時半発車、子ども三十五名、車内はすこぶるにぎやかであった。

名神高速沿道の深まりゆく秋景を賞で美濃、近江路をすぎ、正午ちかく、樫本校友会長と事務局の人々に迎えられて関大会館についた。

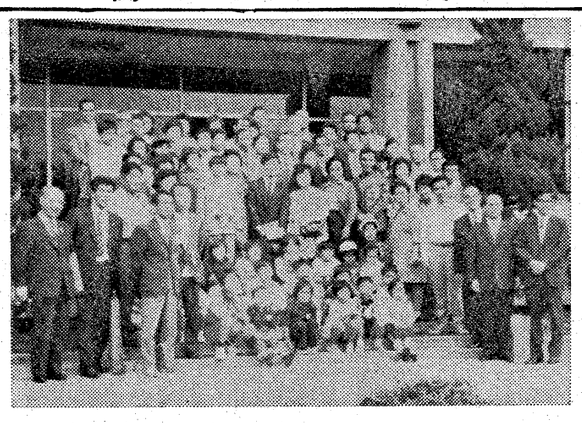
会館前で記念写真をとって、会場にあてられた四階集会室に集った。屋上から四囲の眺めはすばらしい。南に大大阪市が一望に見わたされ、東方はるかに生駒山、北は北摂の山から、六甲山系が西に見わたせる佳い景観である。

藏見幹事の司会で、樫本校友会長から、今日は体育の日で、大学は休業しているが、夫人や子たち孫たちづれでよく来学下さった。またみなさんの主人、父や祖父の母校をゆっくり見てほしい。と歓迎のあいさつがあって乾杯、昼食を共にした。

学内見学は樫本会長が先頭に立って説明したが、体育の日でもあり、弓道大会や、グラウンド、野球場、テニスコートその他学生の練習風景が見られた。改築中の大学院や、法文学舎、図書館、体育館、工学部等々学内の施設を約一時間にわたり見学した。この日ばかりはパパの一日で、奥さんや、子たちにあっちこっちで説明している風景が見られた。

この度のスケジュールには、万博跡の見学が組まれていたので、三時すぎ樫本会長や事務局の厚意を謝し母校見学を終了した。

万博跡では、日本庭園や、子たちはジェット・コースターに興じ、五時すぎ名神高速で帰路につき、八時名古屋に無事帰着、意義ある一日であった。


関大会館で開かれた愛知支部総会

## 若手校友目立つ
### 大阪東支部総会

大阪東支部（薩摩卯一支部長）本年度総会は九月二十五日東区船場の東海倶楽部に約四十名参加して盛大に行われた。

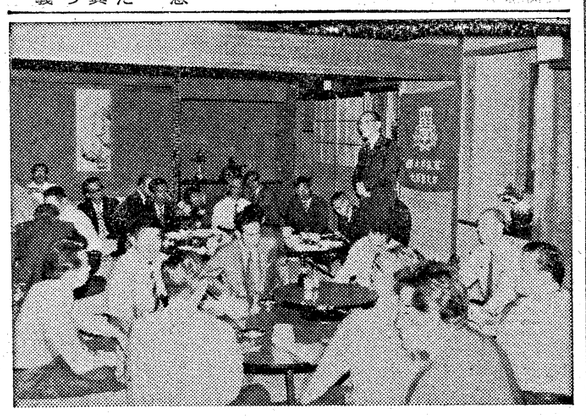
東支部では会員に親しみのある総会を持つべく、時には母校から教授を招き時事解説を、時には在学生の落語、マンドリンなどとり入れてきている。

本年度は、趣向を変え、新たな角度から、ラジオ寄席を一席とり入れ、総会時間までのひとときを寛いだ。

当日は母校から広瀬学長、本部から樫本会長、支部育ての親植田完治先輩、岡野本部顧問、増本現東区長、川野栄三、徳永武の諸先輩など多彩な顔ぶれに興も一段と増した。

田中幹事長の軽妙な進行も手伝って終始なごやかに運び、恒例の福引では、片野氏をはじめ有志の寄付で飾られた景品を前に、一喜一憂し、まことに有意義に会を閉じた。

なお今次の総会には大阪市信用金庫のグループ参加をはじめ、若手校友の参加が目立ち、今後に大きな期待が寄せられる楽しみある総会である。


若手校友の参加がめだつ東支部総会

## 豪傑節も飛出す
### 大阪旭支部総会

大阪旭支部（寺西武支部長）昭和四十八年度の総会は、九月二十八日、京橋のサンプラザ"大北京"で午後六時から開かれた。

当支部は、前川信之助氏が副会長に、寺西支部長が組織部長にと校友会本部の重要ポストを担当している校友の在住する支部である。

それだけに、支部運営に参画する校友も熱心そのもので、多くの有力な校友に支えられ巧みな組織運営がなされている。

当日は、生憎母校の理事会が行われたため学長、会長の出席が得られなかったが、本部から大島副会長が、母校と本部の近況を報告され、また出席者の自己紹介に一層の親しみが深まり、中華料理卓を囲んで話題も尽きるところを知らず、一夕を友の消息を知り合い、最後に声高らかに豪傑節あり学生歌あり、学歌ありまことに和やかに歓談した。

### 明石新学長歓迎会
#### 関大経済人クラブ

関大経済人クラブでは、広瀬学長の任期満了の後をうけて、十月一日から新学長に就任した明石三郎教授歓迎会を、十月五日（金）午後五時半から新阪急ホテルで開催した。出席者は四十名

戸根幹事の司会で、明石新学長のプロフィールの紹介があり、岡野衛士会長から、学長の重責を負うご苦労に対し、謝意を表し、十分健康に留意されて、母校のために尽力下さるようにとのあいさつがあった。

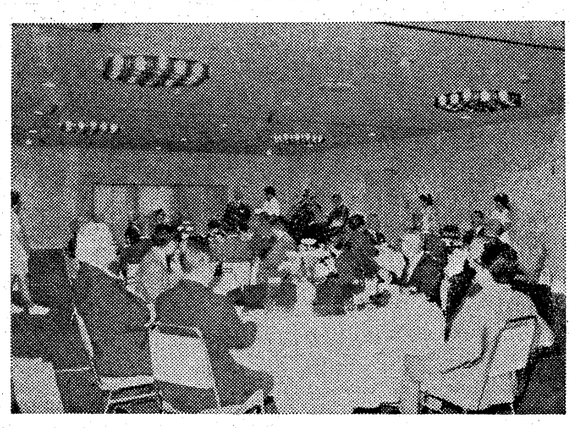
久井理事長からは、大学の自治学問の自由を尊重することはいうまでもないが、大学の真価が世間から問われている現在である。大学関係者はきびしく自己反省すべきではないかと、経営の責任者としての所信を披れきするところがあった。

明石学長は、昭和二十二年から在職二十六年、今はすっかり関大人になった。久井理事長とは昭和二十七年学校法人評議員としての同期の桜、この大理事長がおられるので安心であり、学内の協力を得て、学内の懸案解決には真剣にとりくみたい。と抱負を語った。

南海電鉄副社長増田金一氏や、校友会京都支部長木下忠夫氏、ナショナル証券専務黒田一男氏、サヨカ興産代表取締役平田啓治郎氏などから、明石新学長激励のことばがあって、八時閉会した。

旭支部総会に参集の人々

十七会に参集の人々


明石学長を迎えて開かれた関大経済人クラブ

## 代表幹事に中川氏
### 関西大学十七会

関西大学十七会の本年度総会は九月二十日午後六時から大阪上六"レストラン都"に約三十五名参加して開かれた。

十七会は、昭和十七年九月二十日、当時戦時下を繰上げ卒業以来昨年は卒業三十周年を宝塚"松涼庵"で持ち、年次総会は欠かすことなく今日に至っている。しかも卒業記念日を年次総会日と、同期会でも他に類をみないユニークな組織となっている。

当日も遠方東京から、全く三十年ぶり、卒業後はじめて出席という高崎績氏（大正海上促険常務）をはじめ、福岡、徳島と遠隔から年一回の会合に一段と花を添え、また母校からは広瀬学長、樫本校友会長の出席を得、歓談尽きることなく一層内容あるものであった。

なお当日は任期満了による代表幹事の改選が行われ、新たに中川藤一氏を選任した。これにより十七会の連絡場所は豊中市本町九丁目八―七八中川藤一方　電話(06)八五二―四四八二である。

## 校友カード
## 各支部別の分類進む
### 本部の事務機器を作動

校友会本部では、本部事務の機械化整備計画の実施により、昨年度発行された昭和47年版の校友名簿では、整備計画により導入されたカードを活用し、名簿編成の基礎資料とした。

本年度は、このカードを地域支部別に編成替えして、校友会地域支部名簿編纂の資料に供すべく、過般来その作業を進めている。

これは、基本的に、「47年版校友名簿」で住所判明者とされた約八万六千名のカードについて、校友名簿編成の体系となっていた卒業年度別、部科別の体系から、新たに地域支部別に体系を組替えするものである。そのためには、住所判明者全カードを、五十音順の分類、地域の分類と二つの基礎分類を終え、最後に地域細分類を要することになる。

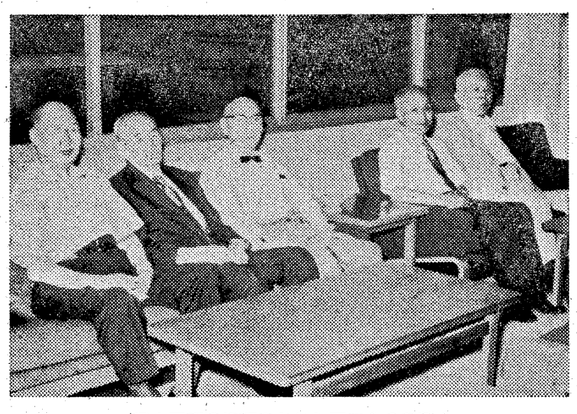
分類には事務機器を活用して作業の迅速を計っているが、卒業生全体を最終的に分類できるまでには、時間的制約があり、目下最後の追込みにかかっている現状である。

因みに現在支部の要請により、分類済の一部を列記してみると在住校友は次の通りとなった。

【伊丹】一〇〇一名【西宮】三〇〇〇名【京都】二五八八名【和歌山】一六七九名【此花】三四七名【大阪西】五九二名【大淀】四八五名【港】三六六名

なおこの分類されたカードには、氏名、卒業年次、部科別、現住所・勤務先、電話（現住所・勤務先）などの内容が盛られており、カード二八枚を一枚に複写して名簿とする方針で進めている。

なおカードに記入されていることがらの内容は、卒業生各自の届出されているものを転記しているため、中には届出後の転居、転職などによって不正確になっている部分もあるが、本部では創立九十周年を二年後にひかえての組織推進計画に伴う、支部組織促進の手懸りとしていただくため、鋭意作業と取組んでいる。


橋本同窓の祝賀をかねた正二会の懇親会

## 正二会懇親会

正二会（大正二年卒業生の会）では、去る七月二十三日堂ビル清交社において今回同窓の橋本君が関西学院大学において博士科程卒業の祝賀を兼ね懇親会を催した。

出席者は橋本定蔵、若井伝次郎、中塚正信、中村公男、加納藤石衛門の五人。

何分旧友久々の会でもあり、橋本君の篤学の問題をはじめ話はつきず、時刻の経過も忘れ定刻も迫る八時前散会した。（加納記）

## 沖縄だより

沖縄支部では、さきに支部名簿を作成したが、現在判明している者二十四名、役員は、支部長宮里政次（昭14専二商・税理士）、副支部長糸数哲夫（昭26学二法・沖縄ビケン㈱）、幹事平良寛吉（昭36院修法・興南高校教諭）。事務所は、那覇市牧志町二ノ三二〇宮里政次支部長宅、電話三二―九八五九である。

さる九月二十九日には支部総会を開き、校友会本部から祝電をも寄せられて一同感激。盛会であった。

## 日本拳法初の十段位を贈られた矢野文雄氏

口…日本拳法で初の十段位を贈られた矢野　文雄（やのふみお）氏。「名誉ある尊い段位にただただ感激している。日本拳法が生まれて今年で四十一年になるが、これまでは本当にイバラの道だった。今は拳法人口も増え、飛躍への契機ともいえる時期にさしかかっている。これからはさらに団結を強固にして"日本文化の誇り"をもって邁進、日本拳法の発展につとめていきたい」と抱負を語る。

口…日本拳法は、昭和七年、澤山宗海氏（現宗家）を中心に若き有志七人によって、高き品性、高度の技術、礼を尊び法を守り、秩序に従い、明朗にして健康なる人間形成を主目的として、関大で生まれた新しい日本武道である。

## それぞれの人

矢野氏は関大入学時高文試験と取り組み勉強を続けていたが、体をこわし、健康回復のためさまざまなスポーツをやっていた。体の回復にともない、スポーツの研究に力を入れ、当時の中之島図書館の武道の本は全て読破した。

そんな時、新しい武道を研究していた先輩の澤山氏と知り合い、日拳の創始者の一人として参加し、関大の主将として活躍した。以来四十年、その発展、普及に努力している。

口…関大主将当時は、空いている教室や近くの垂水神社で練習し、ボクシングのグローブをつけたり他の武道の防具をつけたりして、日拳の防具その他の完成に努め、卒業後は就職先の和歌山で道場を開き、学生、一般人のべ一、〇〇〇人を指導した。

戦後は大阪に帰り、事業のかたわら日拳の再興をはかり昭和二十二年澤山氏等二十名とともに、再建の一歩をふみだした。氏の自宅に本部をおき、前のコンクリートの上で練習、当時は物資欠乏し、防具も手に入らず、時には皿まみれになることもあったそうである。

現在日拳は、八十数大学をはじめ、社会人、高校生など広く普及しており、修法者人口は十五万人に及ぶ。氏は、日本拳法の会長として各大会を勧め、現役として活躍されている。

口…趣味は、運動、園芸、美術鑑賞、音楽鑑賞など幅広い。元関西大学理事・監事、現評議員、校友会参与、体育OB会名誉会長、ヤノシゲ㈱社長、昭和大法卒。

## 水産閑話
## うなぎの木登り
### 井手信義

有明海のムツゴロウは干潟をはい廻わり、マレー半島の木のぼり魚は、木に登るといわれているが、鰻の木登りは誠に珍しい。

事実、フランス産「しらすうなぎ」は、湿気さえあれば、木でも鉄棒にでも、垂直に登って行く。九十度以上の上昇角度で行動出来る。

この「しらすうなぎ」の運動は体躯をS字型に屈伸させる行為を繰り返しながら、次第に高所へ登って行く。先ず尾部の方に下半身を、頭部の上半身近くまでスライドさせる。次に頭部を上方に伸ばした後、再び下半身部をS字型に湾曲させる。即ち、ツー・ステップでワン・アクション。この一回の動作で二―三㍍の高さを登る。

このツー・ステップの運続動作によって「しらすうなぎ」は二㍍の高さでも十㍍の高所へも登ることが出来、かくして正真正銘の「うなぎのぼり」の芸当を披露してくれる。

かかる行動は、我国で採苗される従来の日本産しらすうなぎには、見られなかった曲芸である。

また、元池（しらすうなぎを養殖する九十平方㍍ばかりの池）のコンクリート壁を這い登って、その池を空にしたり、養殖池の堤防を登って逃避行の最中に、俄かに太陽が雲の切れ目から照り出したので、その体表の粘液が乾燥して活動の自由を奪われ、自分で自分のミイラを製造する賢いしらすうなぎもいる。

人間は、彼等の遁走を防止するため、元池の周壁にソリカエシを設けている。

さて、しらすうなぎは、初秋から翌春頃までに我国沿岸に回游して、汽水域（河口等の海水と淡水とが混入している水域）に接岸する。この頃の彼等の体色は透明であり、僅かに眼・脊椎骨、及び尾部とが黒色を帯び、内臓部は真紅色を呈している。

四―六月頃、次第に全身が黒色化してくると、彼等は河川を逆上し始める。このステージの仔鰻をクロコ（黒仔）と呼ぶ。

古代ローマ時代、アドリヤ海沿岸の鹹水湖で天然産の仔鰻を半年間養殖して食用に供したといわれている。

我国では一八七九年頃（明治十二年）より、静岡、愛知、三重の三県下で養鰻事業が行われ初めたが、この時代の人々は、河川で採苗されたクロコや仔鰻等の幼鰻を原料（種苗）として用いていた。

一九一八年頃、愛知県下のある養鰻家が種苗として「しらすうなぎ」を利用することを考えて、そして、外部的条件変化に対応することが出来、本能的に、かつ短時間内に、その環境に対し適応性（自己防御）を示す事が出来ること。

また、輸送容器として、軽量の発泡スチロール製特別魚函を使用して、航空料金の軽減を図った点も見逃す訳には行くまい。

さて、約二百年前迄は、うなぎの学問的な事は皆目解かっていなかった。

一七七七年、伊のモンディユイが鰻の卵巣を発見した。それから百年後、独のシイルスキーが精巣を見付け出したので、漸く鰻は雌雄異体で、卵生であることが解明出来た。

かくして鰻の生態的研究も軌道にのり始め、鰻は性転換を行う、と主張する学者さえも現われたが、筆者はこの説には賛同致すことが出来ない。

一八九六年「伊の動物学者グライシとガランドルシオとがレプトケファルス（葉鰻）を研究の結果、鰻の幼生であることを突きとめた。

卵から孵化した葉鰻は、ある期間、海中生活をなした後、変態して透明な仔鰻、いわゆる「しらすうなぎ」となる。そして河川や湖沼で生活をして、遂に親鰻となり、降海して、その産卵海域に回游。産卵後、後継者達を残してその生涯を閉じる。

この葉鰻が孵化して、変態を遂げ、河川を遡上するまでの期間を日本産鰻やアメリカ産鰻は、約一年間、フランス産鰻（ヨーロッパ産）は約二年半だといわれているが、後者については筆者は疑問を有し続けている。

現在、何尾の日本産鰻の葉鰻が採捕されたかと思って、筆者は計算してみたが、今日までに十尾未満の採苗があったに過ぎないと推算している。

この様な状態であるから、何処の海域に出漁すれば、その採苗が可能であるか、あるいは何十㍍の深度でプランクトン・ネットを曳けばよいか等の基本的事項さえも全く未知数で、その産卵海域も推測の範囲を出ていない、漠然とした現状である。

しらうなぎのサイズは

体長　五〇―七〇㍉

体重　〇・二―〇・五㌘

平均値としては、フランス産の方が、日本産の二倍位の大きさである。

次にしらすうなぎがマーケット・サイズに生長する期間は、各種の飼育条件や個体差等によって相違するが、概して一年半である。（加温水槽の場合ではほぼ一年）中には、ハシリあるいはトビと称する慌てもののしらすうなぎもいて、大抵いで、一年もかからないで成鰻となるので、他の仲間より、一足早く市場へ出荷されるアホーナ鰻もいる。

現在、東京市場におけるマーケット・サイズと称される、鰻の一尾の目方は、一五〇㌘物が最高値中心サイズは二〇〇㌘で、三百㌘以上になるとフトあるいはボクと呼ばれて、却って安値が付けられる。関西方面馴では少し大い方が喜ばれる。

河川や湖沼で生長する天然鰻は

雄鰻　三―四年

雌鰻　四―五年

で成熟期に達する。成熟期に達した鰻は、秋になると降海し、河口付近の汽水域に集結し、海水致馴の訓練を重ねる。このステージになると、彼等の皮膚の光沢も一段とその輝きを増し体重も増加する。

産卵場所へ向うヨーロッパ産鰻の眼は、従来の二倍大に拡大し、深海魚の魚相を示すようになる。この段階の日本産鰻の雌雄を捕えて、人工採卵実験が千葉県内湾水産試験場内水面分場で行われたの端に、斯業界は予期しない障害に直面しなければならなかった。

それは「しらすうなぎ」の不漁で、種苗に関する需給関係が著しいアンバランスとなり、各地の養鰻家達は、その必要とする種苗の確保に、奔走しなければならなかった時代となった。

一九六八年、筆者はかかる窮乏事情の緩和策として、フランス産しらすうなぎの輸入を計画し、翌年一月、パリより羽田までの、世界に類の無い種苗の国際長距離空輸に成功することが出来た。

この事業は、航空機による国際長距離輸送というタイトルに結びつき、輝かしき国際新記録の樹立という事実が生まれ筆者はその記録保持者になった。

この成果は、広く航空業界、貿易業界、養殖業界等の関係者達の重視するところとなり、また、この成功に刺激されて、それ以降、各種の魚介類の種苗、あるいは活魚等の商品が空輸され始め、国際的な移動が行われる様になって来た。この国際間の長距離空輸事業は、年と共にその取扱量を増加しつつある。

さて、この空輸を成功させ得た最大の原因を筆者は、しらすうなぎの習性を熟知していたからである、と考えている。

即ち

1、しらすうなぎ（成鰻）は皮膚呼吸を営むことが出来、皮膚に湿気をそなえておけば、長時間生存させることが、可能であること。

2、低温下で冬眠に近い状態に置けば活動性が鈍り運動エネルギーの浪費を避け得、かつ呼吸回数が少なくなるので、酸素の消費量も減少する。

3、体表、鰓等に分秘液を分秘し、外部的条件変化に対応することが出来、本能的に、かつ短時間内に、その環境に対し適応性（自己防御）を示す事が出来ること。

また、輸送容器として、軽量の発泡スチロール製特別魚函を使用して、航空料金の軽減を図った点も見逃す訳には行くまい。

さて、約二百年前迄は、うなぎの学問的な事は皆目解かっていなかった。

一七七七年、伊のモンディユイが鰻の卵巣を発見した。それから百年後、独のシイルスキーが精巣を見付け出したので、漸く鰻は雌雄異体で、卵生であることが解明出来た。

かくして鰻の生態的研究も軌道にのり始め、鰻は性転換を行う、と主張する学者さえも現われたが、筆者はこの説には賛同致すことが出来ない。

一八九六年「伊の動物学者グライシとガランドルシオとがレプトケファルス（葉鰻）を研究の結果、鰻の幼生であることを突きとめた。

卵から孵化した葉鰻は、ある期間、海中生活をなした後、変態して透明な仔鰻、いわゆる「しらすうなぎ」となる。そして河川や湖沼で生活をして、遂に親鰻となり、降海して、その産卵海域に回游。産卵後、後継者達を残してその生涯を閉じる。

この葉鰻が孵化して、変態を遂げ、河川を遡上するまでの期間を日本産鰻やアメリカ産鰻は、約一年間、フランス産鰻（ヨーロッパ産）は約二年半だといわれているが、後者については筆者は疑問を有し続けている。

現在、何尾の日本産鰻の葉鰻が採捕されたかと思って、筆者は計算してみたが、今日までに十尾未満の採苗があったに過ぎないと推算している。

この様な状態であるから、何処の海域に出漁すれば、その採苗が可能であるか、あるいは何十㍍の深度でプランクトン・ネットを曳けばよいか等の基本的事項さえも全く未知数で、その産卵海域も推測の範囲を出ていない、漠然とした現状である。

しらうなぎのサイズは

体長　五〇―七〇㍉

体重　〇・二―〇・五㌘

平均値としては、フランス産の方が、日本産の二倍位の大きさである。

次にしらすうなぎがマーケット・サイズに生長する期間は、各種の飼育条件や個体差等によって相違するが、概して一年半である。（加温水槽の場合ではほぼ一年）中には、ハシリあるいはトビと称する慌てもののしらすうなぎもいて、大抵いで、一年もかからないで成鰻となるので、他の仲間より、一足早く市場へ出荷されるアホーナ鰻もいる。

現在、東京市場におけるマーケット・サイズと称される、鰻の一尾の目方は、一五〇㌘物が最高値中心サイズは二〇〇㌘で、三百㌘以上になるとフトあるいはボクと呼ばれて、却って安値が付けられる。関西方面馴では少し大い方が喜ばれる。

河川や湖沼で生長する天然鰻は

雄鰻　三―四年

雌鰻　四―五年

で成熟期に達する。成熟期に達した鰻は、秋になると降海し、河口付近の汽水域に集結し、海水致馴の訓練を重ねる。このステージになると、彼等の皮膚の光沢も一段とその輝きを増し体重も増加する。

産卵場所へ向うヨーロッパ産鰻の眼は、従来の二倍大に拡大し、深海魚の魚相を示すようになる。この段階の日本産鰻の雌雄を捕えて、人工採卵実験が千葉県内湾水産試験場内水面分場で行われたの


大島特許事務所
所主　弁理士　大島武夫
弁理士　大島一公
弁理士　藤本昇
大阪市西区江戸堀北通二丁目二十五番地（とみたビル）
電話（四四一）二一〇〇・一三九四（四四三）六一五〇

特許・商標・出願全般・審判事件
日・英・米・独・仏・伊・スイス・ベルギー
中近東・東南アジア諸国・韓国等取扱
鈴木国際特許事務所
所長・弁理士　鈴木武夫
弁理士　竹田明弘
大阪市西区西長堀南通一丁目九番地（四ツ橋交叉点南50m東側地下鉄四ツ橋線四ツ橋駅中央出入口隣）藤村ビル二階
電話　大阪　〇六（五三一）七四三一～七四三四　七四三五（所長室）

職場でふやす100万円
住友の財産形成信託
●㊙とは別枠で元本100万円までの利息は非課税です。
●金銭信託（5年以上、年7.53%（現行配当率））貸付信託（5年以上、年7.72%（現行配当率））を中心に積立てるので、利回り抜群です。
●積立金額は1,000円単位で何口でも自由です。
●ローンサービスなどいろいろな特典が受けられます。
ふやす　住友信託銀行 本店営業部
大阪市東区北浜5丁目（新住友ビル）電話06(220)2121(代表)郵便番号541

高野山
四季おりおりの風情が訪れる人々の心を魅了する高野山―いうまでもなく弘法大師が真言密教の総本山としてひらいてから1,150余年　山上とは思われぬ平地120余の堂塔伽藍の優雅なたたずまいは　人々にやすらぎを与え　奥の院参道の墓石や供養碑は　故人のありし日の活躍を思い出させてくれます
◆交　通
なんば―高野山　特急「新こうや号」1時間40分
急行30分毎運転
高野山内一帯　南海電鉄バス随時運転
南海電鉄

アサノ セメント
アサノホワイト・アサノコンクリート
アサノポール・アサノスレート
アサノブロック・Y T O N G
エースセメント・建　設　材　料
原田今商事株式会社
（本社）大阪市西区西長堀橋南通三丁目八番地　鶴崎ビル
TEL　大阪 06（541）7455～8番（直通）
大阪 06（541）7251～5番（交換）
代表取締役　原田守蔵
（昭和25年学1経卒）

# 数詞は一と二だけ

## ヤノママ族の言語生活

**探検部アマゾナス踏査隊報告**

〈完〉

ヤノママ族の話す言語は一般にワイカ語と呼ばれるものであり、南米インディオの多くの語系のどれに属するかは定かでない。ワイカ語の中でもいくつかの方言に分かれており、異なるグループとの会話では、ときおり聞き違いがあるようである。

彼らのしゃべっているのを聞いて、まず驚くのは、その発声の奇妙さである。声をのどの奥から絞るように出し、そのため、しゃべる前に一度大きく息を吸い込まねばならず、しゃべった後、吸い込んであまった息を「ハア」とはき出す。それがまるで「ためいき」に聞こえて、いかにも、しゃべり疲れたという風なのである。ちょうど、軽く腹筋を張りながらしゃべると、よく似た具合になる。

とにかく声が前に出てこないしあまりに耳新しい言葉なので、ミッションの作った単語帳をもっていたとはいえ、その確認に手間どり、くわえて、新しい単語をひき出そうというのはなかなか骨の折れる仕事であった。

あまり上等な言葉はしゃべってないだろう、と思うのは間違いで彼らなりの、ちゃんとした文法体系を持っているのである。ここにその一部を示すと―。

まず〈私〉は〈ヤ〉という。英語のIにあたるわけであるが、WEにあたる複数形を〈ヤマク〉といい、それに〈私と彼〉とかいう時に使う両数形の〈ヤハク〉がある。〈行く〉という動詞は〈フーウ〉といい〈私は行く〉で〈ヤ・フーウ〉となる。〈私は彼らが好きだ〉は〈ヤ・バ・ノヒマウ(私・彼ら・好む)〉となる。そして「彼ら」が具体的には、例えばインコだとすると〈インコ・私・彼ら・好む〉という順序になるわけである。〈私は食べたい〉は〈私・食べる・欲する〉となり英語のように〈欲する・食べる〉とはならない。また英語の前置詞にあたる、方向を示すものは「後置詞」となり〈森へ〉は〈ウーリヒ・ハム(森・へ)〉となる。

動詞の変化は全て接尾語をつけ加えてゆくのである。この点では日本語、モンゴル語、トルコ語と似ており、否定形は動詞の語尾に〈イミ〉をつける。〈私は行かない〉は〈ヤ・フー・イミ〉という具合である。過去形は〈マ〉と付け〈私は行った〉は〈ヤーフー・マ〉である。この他、未来や動作時間の長さによって、様々な制約があり一例だけをあげると、〈私は(一定の時間)行った〉は〈ヤ・フー・ラヨ・マ〉である。

いまのべた文法はロベルト部落駐在のプロテスタントの宣教師によってまとめられたものであるが、10年間の積み重ねとはいえ、その努力に驚きと敬意を表す意外にない。宣教師の夫人が日本語をしゃべれるということも、日本語との共通項が多いだけに、言語学にアマチュアの彼らには、よかったのではないか。そして、もちろん宣教師夫人の日本語力が私達の調査活動に大きなウエイトをしめたことはいうまでもない。この点でも幸運としかいいようがない。

つぎに単語について面白そうなものを取り出して見たいと思う。まず単語をざっと見て、目につくのは日本語の「ちょうちょう」のような繰り返す言葉がかなり見られるということである。〈雲〉を〈クロケクロケ〉、〈平地〉のことは〈ヤリヤリ〉、〈ワニの大きいの〉を〈コーエイコエイ〉といい、〈こみ入れの小袋〉を〈フリフリ〉、新しい言葉で〈のこぎリ〉のことを〈キリキリ〉というのは面白い。また精霊に関する言葉も多く見られる。〈リーシン〉というのは動物や鳥に宿る各人の霊のことであるが、対応する鳥などに同一視が見られるのである。〈若い男〉と〈若い鳥〉が同じく〈コヨリバ〉という言葉で表わされるのを見ても、それがいえる。ほかに〈ミツバチの精〉や〈ヤシツバチやヤシの種類が非常に多くなったらしい。この経済成長論者は一転して「0成長の哲学」を唱えはじめた。このままゆけば地球号は沈没する。救いの道は唯一つ、現在の経済成長をゼロに凍結することだ、と。

このレポートは多くの仮定にもとづいて予測と推測で組み立てられているため、さまざまな疑点がないわけではない。例えば、体制問題を避けた可耕地と農業生産力の関係などもその一つである。論者によっては、資本主義の延命策のキャンペーンにすぎない、ときめつけるものもある。

ところで、わが国の食糧自給率は三五年以降の高度経済成長の過程で極端に低下していった。三五年の総合自給率は価格計算で九〇%であったのに対し、最近は七〇%を割り、オリジナルカロリーでは四〇%の水準にあるといわれる。主食の米が過剰といわれ一〇〇%をオーバーすることからすれば、他の食糧についてはいかに自給率が夕ウンしているかがわかろうというものだ。大豆は自給率四%、小麦は八%、飼料は三〇%、われわれが昼食にテンプラウドンを食べればエビは外国製、コロッケは小麦だからこれも外国製、わずかに「水」だけが国産品だ。

オール兼業化に、構造政策はようやく価格政策で息をつき、そうして出稼ぎに、過疎にと、日本の農政は「豊かな農業と農村をつくる」にはあまりに貧困であった。

しかし筆者は、わが国の農政が決して失敗したとは思われない。むしろ美事に成功したと思う。資本の論理にすっぽりはまった農政は、まったく成功した。さきの食糧自給率の低下と関連させてみれば、この成功はかなりすっきりと浮彫されうる。

一兆円を優に越す大量の海外農産物の輸入は、わが国の農業を圧迫し続け、高いといわれる食糧を生産する農民は、何か悪いことでもしているような気持ちさえなまれ、営農を続けることをあきらめていった。これら農民とその子弟は兼業に走り、離農していかざるをえなかった。これは資本にとって、金の卵を生みだす安い労働力の調達にかっこうの手だてを提供した。土地も安く手に入れることができた。農業の保護に支出するべき財政負担を節減することができた。輸入食糧品の買占めは容易になり、工業製品の輸出もその見返りに拡大しえた。農民に顔を向けず、資本に顔を向けた日本の農政は美事に成功した。むらと人間を崩壊させ(安達生恒)都が土を狂わせ(薄井清)農民の精神をスプロール化させるという代償を払って。

**手痛いシッペ返しをいつか**

いま「農業を見直そう」「緑の自然を守ろう」「食糧の自給率を上げよう」と農の復興の雄叫びが聞かれる。つい最近まで国際分業論を説き、高価な食糧につくと農を蔑視し、高度経済成長を旺歌していたものどもの資本の手当ができて、この爆発する人口増加を養うだけの食糧が果たして確保されうるだろうか、と「成長の限界」はいう。

このレポートは「マンスホルト・プラン」で有名な農業近代化論者、前EC経済委員長マンスホルトに余程のショックを与えたらしい。この経済成長論者は三五年の総合自給率を価格計算で九〇%であったのに対し、最近は七〇%を割り、オリジナルカロリーでは四〇%の水準にあるといわれる。主食の米が過剰といわれ一〇〇%をオーバーすることからすれば、他の食糧についてはいかに自給率が夕ウンしているかがわかろうというものだ。大豆は自給率四%、小麦は八%、飼料は三〇%、われわれが昼食にテンプラウドンを食べればエビは外国製、コロッケは小麦だからこれも外国製、わずかに「水」だけが国産品だ。

オール兼業化に、構造政策はようやく価格政策で息をつき、そうして出稼ぎに、過疎にと、日本の農政は「豊かな農業と農村をつくる」にはあまりに貧困であった。

しかし筆者は、わが国の農政が決して失敗したとは思われない。むしろ美事に成功したと思う。資本の論理にすっぽりはまった農政は、まったく成功した。さきの食糧自給率の低下と関連させてみれば、この成功はかなりすっきりと浮彫されうる。

一兆円を優に越す大量の海外農産物の輸入は、わが国の農業を圧迫し続け、高いといわれる食糧を生産する農民は、何か悪いことでもしているような気持ちさえなまれ、営農を続けることをあきらめていった。これら農民とその子弟は兼業に走り、離農していかざるをえなかった。これは資本にとって、金の卵を生みだす安い労働力の調達にかっこうの手だてを提供した。土地も安く手に入れることができた。農業の保護に支出するべき財政負担を節減することができた。輸入食糧品の買占めは容易になり、工業製品の輸出もその見返りに拡大しえた。農民に顔を向けず、資本に顔を向けた日本の農政は美事に成功した。むらと人間を崩壊させ(安達生恒)都が土を狂わせ(薄井清)農民の精神をスプロール化させるという代償を払って。

**書斎の窓**

生田　靖

小松左京の「日本沈没」がベストセラーになったり、「終末から」という雑誌が発行されたりして、あの数年前のはなやかな(しかしウツロな)「未来学」が急速に色褪せ、どうも最近は「終末思想」へとどんでん返しした様相が濃くなってきた。

さまざまな(しかも特殊日本的ともいえるハレンチな)公害が人々を脅かし、石油などの世界の資源の枯渇が云々され、大小の地震の発生がニュースとして流され、さらに海の潮位の異常上昇や雨が一向に降らず、台風さえやってこないといった異常気象の状況などなどが昨今の世相に微妙に作用したからであろうか?

そうしてそのような悲観潮流は、いまや世界の食糧問題にまで波及してきた。一昨年来二年にわたって世界の多くの地域を襲った一方の干ばつと、他方の洪水は、世界的に広範な「凶作」となってあらわれた。それからすれば日本は稀にみる好運に恵まれた国であった、といえよう。

このような「凶作」状況は近い将来世界的な食糧不足がおこるのではないかという危惧をいだかせるまでに至っている。いやわが国の場合でも、それは単なる危惧に終わったわけではない。台所をあずかる主婦に悲鳴をあげさせた豆腐の値上げは、この危惧を現実的なものにした。

豆腐の原料である大豆は、すでにその九六%をアメリカを中心とした外国からの輸入によっている。その大豆価格が不作や他国の大量買付けで昨年の末から天井知らずの急騰に見舞われたからだ。(昨年の十月までは60kg当り三、五〇〇円が年末には五、〇〇〇円、年を明けると二万円、頂点の二月初めには一、五、〇〇〇円と価格は四倍以上にはね上った。もちろんよく言われる商社の思惑もそれなりに作用したが)この値上りは豆腐にとどまらず、納豆、味噌、醤油にも及んだ。

わが国の畜産経営のエサは七〇%海外から輸入している。このエサも同じ要因から昨年から今年にかけて急騰し、畜産農家の死活問題をかかえつつ肉類の価格上昇、長年安定していた卵の値上病までにおよんできた。輸入小麦の値上がりはパンやメン類にも影響しはじめている。

ジャーナリズムはいち早くこれを「飢の時代がやってくる」とのキャンペーンで読者に答えている。

**ローマ・クラブとマンスホルト**

「飢の時代」を最も声高に表明したのは昨年はじめに出された現代のマルサス(Malthus for Modern Times)といわれるローマ・クラブの人類の危機レポート「成長の限界」である。宇宙船地球号はいま五つの大きな傾向―加速度的に進みつつある工業化、急速な人口増加、広範に広がっている栄養不足、天然資源の枯渇、環境の悪化―に見舞われている。この傾向が将来とも続くとすれば、人類の住む地球号はどうなるであろうか。

# 飢の時代が来る?

## 世界の食糧問題と日本農業

**胃袋の半分は外国製**

世界の食糧不足問題は、異常気象などに起因する一過性の現象なのか、長期化する構造的なものなのか、という論点もからみ合いながら、わが国の食糧自給問題の論争へと進みつつある。もっともすでに時代も環境も異るところから、あの有名な「世界の工場」イギリスを舞台にしたリカァウドとマルサスの論争の再燃ではありえない、ところまで至っている。

僅か十年余りの期間に、このように自給率を急速に低下させた国はその例がない。日本の農業は零細で生産性が低い、したがってコストが高くつく、資源加工立国のわが国の生きる道は工業発展の道のみ、高くつく食糧生産はその足を引っぱる、全くムダである、安い食糧は外国にワンダンに余っているのだから、それを輸入すればより合理的ではないか、とくに後進国に対しては、開発輸入こそその国の経済発展にもつながり寄こはれるのだ、という国際分業論がまかり通ってきた。自立農家の育成は「日本の農政は美事に成功」

**日本の農政は美事に成功**

食糧問題の急転のなかで「日本の農政は何をしているのだ」との怒りの声も聞かれる。三五年からの基本法農政、構造農政、そうして総合農政へと猫の目のように農政はくるくると変わってきた。自立農家の育成は

ところで、わが国の食糧自給率は三五年以降の高度経済成長の過程で極端に低下していった。三五年の総合自給率は価格計算で九〇%であったのに対し、最近は七〇%を割り、オリジナルカロリーでは四〇%の水準にあるといわれる。主食の米が過剰といわれ一〇〇%をオーバーすることからすれば、他の食糧についてはいかに自給率が夕ウンしているかがわかろうというものだ。大豆は自給率四%、小麦は八%、飼料は三〇%、われわれが昼食にテンプラウドンを食べればエビは外国製、コロッケは小麦だからこれも外国製、わずかに「水」だけが国産品だ。

オール兼業化に、構造政策はようやく価格政策で息をつき、そうして出稼ぎに、過疎にと、日本の農政は「豊かな農業と農村をつくる」にはあまりに貧困であった。

しかし筆者は、わが国の農政が決して失敗したとは思われない。むしろ美事に成功したと思う。資本の論理にすっぽりはまった農政は、まったく成功した。さきの食糧自給率の低下と関連させてみれば、この成功はかなりすっきりと浮彫されうる。

一兆円を優に越す大量の海外農産物の輸入は、わが国の農業を圧迫し続け、高いといわれる食糧を生産する農民は、何か悪いことでもしているような気持ちさえなまれ、営農を続けることをあきらめていった。これら農民とその子弟は兼業に走り、離農していかざるをえなかった。これは資本にとって、金の卵を生みだす安い労働力の調達にかっこうの手だてを提供した。土地も安く手に入れることができた。農業の保護に支出するべき財政負担を節減することができた。輸入食糧品の買占めは容易になり、工業製品の輸出もその見返りに拡大しえた。農民に顔を向けず、資本に顔を向けた日本の農政は美事に成功した。むらと人間を崩壊させ(安達生恒)都が土を狂わせ(薄井清)農民の精神をスプロール化させるという代償を払って。

**手痛いシッペ返しをいつか**

いま「農業を見直そう」「緑の自然を守ろう」「食糧の自給率を上げよう」と農の復興の雄叫びが聞かれる。つい最近まで国際分業論を説き、高価な食糧につくと農を蔑視し、高度経済成長を旺歌していたものどもの資本の手当ができて、この爆発する人口増加を養うだけの食糧が果たして確保されうるだろうか、と「成長の限界」はいう。

このレポートは「マンスホルト・プラン」で有名な農業近代化論者、前EC経済委員長マンスホルトに余程のショックを与えたらしい。この経済成長論者は三五年の総合自給率を

# 通婚圏

## ―摂津国嶋上郡高浜村―

小西　愛之助

ここに紹介するのは、ひと昔前の通婚圏の実態である。時代は文政六年（一八二三）より明治七年（一八七四）までの五十二年間・場所は摂津国嶋上郡高浜村（現在・大阪府三島郡島本町高浜）・資料は関西大学図書館所蔵「摂津国嶋上郡第壱区高浜村戸籍」（壬申戸籍）に拠る。

即ち、その通婚圏は、摂津・山城・河内の三国を主とし、若狭・丹波・近江の三国は例外というべきである。図の件数で、男の出入はともに養子であり、例外として高浜村内の跡目相続の出入が一件ある。女の出入は主として婚嫁であり、その他養女が二件あり、不縁となっての出戻りも二件ある。これを国別に見ると次表の通りである。

若狭国遠敷郡深谷村百姓森下長左衛門娘さきが、高浜村百姓太兵衛に嫁いだのは、天保十二年（一八四一）八月のことであった。時に花嫁二十六歳。此頃としては晩婚である。花婿の年齢は三田戸籍では死亡しているために記載がない。いまひとつは、若狭国遠敷郡小浜今在家町田村長四良娘以能で、高浜村百姓重兵衛に嫁だのは安政三年（一八五六）十月のことであった。時に花嫁は二十四歳。町家の出の知識である。花婿は、一つ年上の二十五歳。それにしても閉鎖性の強い時代に遠隔の地のこの二組の夫婦はどのような糸によって結ばれたのであろうか。二人の娘の出身地はともに現在の小浜市である。

壬申戸籍の記載で一番古い文政六年（一八二三）四月に高浜村百姓重郎右衛門の娘松栄は、丹波国桑田郡犬甘野村医者長沢左司馬へ嫁いで行った。犬甘野は現在亀岡市内に編入されているが、北東に霊仙が岳がつづくまり、南東は湯谷が岳がとぎし、東には黒柄岳が頭を出し、西は歌垣山がさえぎり、当時は山間の一村落である。しかし、京都へは直径三里半・故郷の高浜村へは直径三里である。若狭から嫁いだ二人の娘のことを思えば、まだ近距離である。花嫁は時に二十一歳。百姓の娘より医者の妻となったこの人は、壬申戸籍の時は七十歳で生存されている。この転身もいかなるきにしによるものか。

近江国栗太郡橋本村（現在滋賀県栗太郡瀬田町）磯田源介二男佐太郎が、高浜村百姓奥田すての夫となり入家相続したのは、明治七年一月十五日のことであった。戸籍には養子となっている。時に二十七歳。妻となる先夫の娘が一人いる。しかしこれとても京都へは二里圏内にあり、高浜村までも四里圏内にある。従って近江国といえば遠い感じだが距離的には近い。

これらの高浜村としては例外の三国との縁組には、京都の都会が媒介の役目を果したものと想像される。即ち、小浜と京都とは往来が頻繁であり、高浜村に嫁いだ二人の娘も京都の町家に働いていたかも知れず、或いは一族近辺の者で京都に住みついているものがいたかも知れぬ。それはともあれ、京都と高浜村との関係は距離的にも近いとに、下京、上京合せて八件の縁組が成立している。通婚圏の距離は、若狭の二件を例外として、その他はすべて四里圏内にあり、その他はすべて四里圏内にあり、即ちその比率は、村内婚一九%に対して村外婚は八一%であり、この点、封鎖的な村落としては開放的な一面を示している。しかしそれも主として四里圏内の開放性である。更にこれを詳細に見るならば河内の十二件も、北河内の交野郡に限られ、高浜村の対岸の楠葉村が五件も占めている。これには高浜渡が利用され、婚嫁の人々は淀川を横断したことであろう。また摂津の八十四件も、嶋上郡が七十七件を占め、嶋下郡二件・西成郡四件・大坂一件は例外といってもいいであろう。更にこれを詳細に見ると、高浜村の北隣の広瀬村は十二件、高浜村の二十六件に次ぐ第二の通婚村であり、この二村は隣村という点のみならず婚姻を通じ最も密接な関係にあったのであろう。南隣の上牧村は六件、広瀬村に比してその親疎の度は二分の一というところであろうか。

これは京都の八件に次ぐ、山城国大山崎庄の六件とともに、四位を占めている。五位は淀川を隔てて対岸の楠葉村五件であるが、西隣の桜井村は一件のみである。かかる点からも隣村の絆の度合が推察されるのである。また山城の三位は初代校主吉田一士が発行していたものであるが、吉田は明治十九年十二月四日に、願宗寺において本学最初の講義を行なった人であり、それも法律学ではなく、経済学の講義であったということも、彼が経済雑誌を始める種、この分野に造詣が深かったことを思えば納得がいく。（十一月四日開校日に法律学を講義するはずの講師であった司法官達に対して、司法省からの許可が間に合わず、急きょ吉田一士が経済学の講義をして願宗寺に集った百名を超える生徒達の熱望に応えた。）

以上紹介したもの以外にも、当時本学関係者が出していた雑誌はあるかもしれない（講義録は別として）。今後時間をかけて探してみたいと思うが、お心当たりがあれば、ご教示いただければ幸甚である。なお、上記三誌については、前記杉原四郎教授が、その著書「西欧経済学と近代日本」の中で、経済学の観点から詳しく述べておられ、参考にさせていただくところ大であった。記してお礼を申し述べる。

（出版・広報課　大場義之）

| 国 | 件数 | 比率 |
|---|---|---|
| 摂津 | 84 | 60.4% |
| 山城 | 39 | 28.1 |
| 河内 | 12 | 8.7 |
| 若狭 | 2 | 1.4 |
| 丹波 | 1 | 0.7 |
| 近江 | 1 | 0.7 |
| 計 | 139 | 100 |

| 国 | 郡 | 村 | 出 男 | 出 女 | 出 計 | 入 男 | 入 女 | 入 計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 摂津 | 嶋上 | 高浜 | 2 | 11 | 13 | 2 | 11 | 13 | 26 |
| 〃 | 〃 | 広瀬 | 2 | 3 | 5 | 2 | 5 | 7 | 12 |
| 〃 | 〃 | 上牧 | 3 | 2 | 5 | 1 | | 1 | 6 |
| 〃 | 〃 | 井尻 | 1 | 1 | 2 | | 2 | 2 | 4 |
| 〃 | 〃 | 高槻 | | 1 | 1 | | 2 | 2 | 3 |
| 〃 | 〃 | 東大寺 | 1 | 1 | 2 | | 1 | 1 | 3 |
| 〃 | 〃 | 安満 | | 2 | 2 | | 1 | 1 | 3 |
| 〃 | 〃 | 原 | 1 | 1 | 2 | | 1 | 1 | 3 |
| 〃 | 〃 | 梶原 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | 2 |
| 〃 | 〃 | 前嶋 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | 2 |
| 〃 | 〃 | 芝生 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | 2 |
| 〃 | 〃 | 鵜殿 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | 2 |
| 〃 | 〃 | 萩庄 | 2 | | 2 | | | | 2 |
| 〃 | 〃 | 山崎 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 大塚 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 尺代 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 三島江 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 成合 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 桜井 | | 1 | 1 | | | | 1 |
| 〃 | 〃 | 芥川 | | 1 | 1 | | | | 1 |
| 〃 | 嶋下 | 内瀬 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 鮎川 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 吉右衛門 | | 1 | 1 | 1 | | 1 | 2 |
| 〃 | 〃 | 天王寺 | | 1 | 1 | 1 | | 1 | 2 |
| 〃 | 〃 | 谷町 | 1 | | 1 | | | | 1 |
| 〃 | 大坂 | 大山崎 | 2 | 3 | 5 | 1 | | 1 | 6 |
| 山城 | 〃 | 円明寺 | 1 | 1 | 2 | 1 | | 1 | 3 |
| 〃 | 〃 | 調子 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 今里 | | 1 | 1 | | | | 1 |
| 〃 | 〃 | 下海印寺 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 下久世 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 友国 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 生津 | | 1 | 1 | 1 | | 1 | 2 |
| 〃 | 〃 | 八幡庄 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 口良 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 川上 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 奈良坊ノ池 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 久世 | 1 | 2 | 3 | 1 | | 1 | 4 |
| 〃 | 〃 | 東一口 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 市田 | | 1 | 1 | | | | 1 |
| 〃 | 〃 | 宇治 | | 1 | 1 | | | | 1 |
| 〃 | 〃 | 伏見 | | | | | 2 | 2 | 2 |
| 〃 | 〃 | 淀納所 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | 2 |
| 〃 | 〃 | 下島 | | | | | 1 | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 草生 | | | | 1 | 2 | 3 | 1 |
| 〃 | 〃 | 京都 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 3 | 6 |
| 〃 | 〃 | 上京 | | 1 | 1 | 1 | 2 | 3 | 2 |
| 〃 | 〃 | 楠葉 | | 1 | 1 | 1 | 3 | 4 | 5 |
| 河内 | 〃 | 交野 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | 2 |
| 〃 | 〃 | 渚 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | 2 |
| 〃 | 〃 | 私部 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 鉾ケ阪 | | 1 | 1 | | | | 1 |
| 〃 | 〃 | 宮 | | 1 | 1 | | | | 1 |
| 〃 | 〃 | 浜谷 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 遠敷 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 〃 | 〃 | 小深 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 若狭 | 〃 | 大甘野 | | 1 | 1 | | | | 1 |
| 丹波 | 桑田 | 橋本 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 近江 | 栗太 | | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 計 | | | 18 | 48 | 66 | 14 | 59 | 73 | 139 |

| 区分 | 出 男 | 出 女 | 出 計 | 入 男 | 入 女 | 入 計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 村内 | 2 | 11 | 13 | 2 | 11 | 13 | 26 |
| 村外 | 16 | 27 | 53 | 12 | 48 | 60 | 113 |
| 計 | 18 | 48 | 66 | 14 | 59 | 73 | 139 |

これを100分比で示すと次表の通りである

| | 出 男 | 出 女 | 出 計 | 入 男 | 入 女 | 入 計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 村内 | 11% | 23% | 20% | 14% | 19% | 18% | 19% |
| 村外 | 89 | 77 | 80 | 86 | 81 | 82 | 81 |
| 計 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |

これを、村内と村外とに分けて対比すると次表の通りである。

| 順位 | 国 | 郡 | 件数 | 比率 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 摂津 | 嶋上 | 77 | 55.4% |
| 2 | 山城 | 乙訓 | 14 | 10.1 |
| 3 | 河内 | 交野 | 12 | 8.6 |
| 4 | 山城 | 京都 | 8 | 5.8 |
| 5 | 〃 | 久世 | 7 | 5.1 |
| 6 | 〃 | 綴喜 | 5 | 3.6 |
| 7 | 〃 | 紀伊 | 4 | 2.9 |
| 8 | 摂津 | 西成 | 4 | 2.9 |
| 9 | 〃 | 嶋下 | 2 | 1.4 |
| 9 | 〃 | 遠敷 | 2 | 1.4 |
| 9 | 〃 | 大坂 | 1 | 0.7 |
| 9 | 〃 | 若狭 | 1 | 0.7 |
| 9 | 〃 | 摂津 | 1 | 0.7 |
| 9 | 〃 | 山城 | 1 | 0.7 |
| 9 | 〃 | 丹波 | 1 | 0.7 |
| 9 | 〃 | 近江 | 1 | 0.7 |
| | | 計 | 139 | 100 |

# 考古学入門

―32―

## 須恵器

器形は長頸壺形土器で、均整のとれた形態を示す。口縁部が開き、頸部には二条の沈線がめぐる。肩と胴部の間は稜をなし、底部に高台をつける。古墳時代末期から奈良時代にかけての時期の型式である。出土地不詳。

# 年史編集資料室から

## 本学創立関係者及び第一回卒業生が発行した雑誌について

本学創立関係者が創刊・発行していた雑誌としては、初代校主吉田一士の「経済叢話」及び講師堀田正忠が会主であった学而会刊の「経政法理」が知られており、また第一回卒業生の有志が相寄り出していたものに「文明之法」がある。

これらの雑誌は、それぞれの誌名が示す通り、法律、経済に関する論文や記事がその内容の大部分であるが、三誌とも、関西法律学校の関係者によって創刊され、また執筆者の多くがそうでもあるので、ここに紙面を借りて紹介してみたい。

**「経政法理」**（第一号、本学図書館所蔵）

これは、発行所が「学而会事務所」となっており、会主・堀田正忠（本学創立関係者・講師）、発行人・矢野良喜、編集人・大野昌太郎。第一号は明治二十三年一月三十日発行（終刊時不明）B6版。雑誌発行の趣旨を講師柿崎欽吾が書き、同じく鶴見守義、遠藤忠次が寄稿しているが、巻末に「関西法律学校」という見出しで、次の如き一文が掲載されている。

関西法律学校　屹乎然トシテ我関西ノ地ニ峙立シ、陰々乎然トシテ関東諸大法律学校ヲ凌モ、旭光耀々然タル関西法律学校ハ創立以来日一日ニ隆盛ヲ極メ、已ニ昨年七月ノ如キハ有為多望ノ卒業生拾数名ヲ出シ（筆者注、十七名）、本年モ亦夕正ニ数拾名ヲ出サントス。是等卒業生ニシテ異日愈々法律ノ業務ニ従事スルアラバ、我ガ法律界ノ進歩ヲ助クル幾何ソヤ。真理ハ我ガ関西ノ地ヨリ出ルモ知ル可ラザルナリ。現今通学生総テ四百余名、講師ハ拾壱名ニテ尚ホ他ニ増聘スルヤノ噂アリ。而シテ学科ハ当時我民法・訴訟法・商法等ノ草案ヲ植ト シ、仏英国其他文明諸邦ノ法律ヲ参照シテ、高尚ナル卓絶ナル法理的学理的ノ温奥ヲ講スルヲ以テ眼目トセリ。マタ同校試験ハ従来一年生ハ一年科ノ試験ノミ、二年生ハ二年科ノ試験ノミ、必ズ階級順序ヲ経テ三年生ニ至リ漸ク卒業シ得ルノ制規ナリシガ、是レニテハ如何ニ胸中高尚ナル理論ヲ温蓄シ、自ラ法理ノ奥儀ヲ極ムルモノアリト雖モ、兎モ角三ヵ年ノ星霜ヲ経過セズンバ卒業ノ栄誉ヲ得ル能ハザル訳ケニテ、自然一般学生ヲシテ奨励心ヲ自失セシメ、有為ノ学生ヲシテ空シク失望ノ渕ニ呻吟セシムルノ感ナキニアラザルヲ以テ、本年ヨリ之ヲ改メ、縦令昨日入学試験ヲ行ヒシ者ト雖モ、其人ノ学力器量次第ニテ一年科ノ勿論、二年科ノ試験ヲモ併セテ受クルコトヲ得ル一定メタル由、サモアル可キナリ上云フヘシ。

又同校ハ、特別認可出願中ノ所、其後文部大臣ノ更任アリシガ為未ダ認可セラレザリシニヨリ、今般講師渋川忠二郎氏上京種々奔走セラレ、不日特別認可許可セラルトノコトナリ。就テハ従前ヨリ施行セラル校外生規則モ充分拡張セラレて、政治法律理財の法則を掲ぐる雑誌を発刊す。之を名づけて文明之法といふ云々」の一文を載せ、また創立の中心人物であった井上操も、激励の文章を寄せている。

この雑誌にも関西法律学校の記事は出ているが、「経政法理」と同様、特別認可に関するものであり、ここでは重複をさけて、先にふれた井上操の一風変ってはいるが、初めて学窓を巣立っていった愛弟子に対する、慈愛にあふれた一文を掲げてみたい。

ペカラザルノミナラズ反テ退歩ノ恐アリ。退歩停滞ハ野蛮ノ事ナリ、野蛮ノ事ハ文明之法、文明之法、汝ヲシテ文明之法クラシムルモ汝ニ在リ、汝ヲシテ野蛮ノ法クラシムルモ汝ニ在リ、汝ヲシテ文明之法ニ出ルモノハ又汝ニ回ル。善ニ慶報アリ、悪ニ殃報アルハ天地ノ常法ニシテ、而シテ責任ノ生スル所以ナリ。文明之法クルモノ豈ニ此理ヲ知ラサランヤ。文明之法ハ法律ノ冊子ニシテ、斯道ノ文明ヲ図ルモノナリ。（句読点筆者）

**「経済叢話」**

この雑誌は、創刊の順でいえば最初に紹介すべきものではあるが残念ながら実物を見ることができないのであとに回した。ただ、明治二十年十一月三日の朝日新聞には、発兌広告が出ており、また十八日の同紙に次のような記事がみえるので、実在したものであることに間違いはない。

経済叢話という雑誌の第一号を一昨々日北区信保町一丁目蜂蟻堂より発兌せり。此の雑誌はかねて特主吉田一士氏の広告せし通り、井上操、小倉久、手塚太郎、鶴見守義、志方鍛の五法律学士、堀田正忠（以上六名創立関係者・筆者注）、松田正久の二法律家及び、大阪商業叢話会員並に会社員、銀行員の賛助になり、経済上の論説諸報を集むるものにて、講義の部には手塚太郎氏が経済学講義第一回の筆記を載せたり。

この記事でも判るように、これは初代校主吉田一士が発行していたものであるが、吉田は明治十九年十二月四日に、願宗寺において本学最初の講義を行なった人であり、それも法律学ではなく、経済学の講義であったということも、彼が経済雑誌を始める種、この分野に造詣が深かったことを思えば納得がいく。（十一月四日開校日に法律学を講義するはずの講師であった司法官達に対して、司法省からの許可が間に合わず、急きょ吉田一士が経済学の講義をして願宗寺に集った百名を超える生徒達の熱望に応えた。）

以上紹介したもの以外にも、当時本学関係者が出していた雑誌はあるかもしれない（講義録は別として）。今後時間をかけて探してみたいと思うが、お心当たりがあれば、ご教示いただければ幸甚である。なお、上記三誌については、前記杉原四郎教授が、その著書「西欧経済学と近代日本」の中で、経済学の観点から詳しく述べておられ、参考にさせていただくところ大であった。記してお礼を申し述べる。

（出版・広報課　大場義之）

# 女子の体格に圧倒

## 機能的な体育施設

木村　章二

## メキシコ・カナダ バレー講習紀行

今夏約40日間、メキシコ、カナダを訪れたが、その行状記なるものをつづれづれなるままに書いてみた。

8月中旬にカナダのバレーボール講習会への参加の予定であったが、急拠変更して、その前にメキシコのティファナのパンアメリカン大会を視察することにした。メキシコへの目的は、一流のジャンプを誇るキューバの女子選手の存在を確認することであった。この素晴らしい女子選手の動き、ジャンプ時の助走の早さ、またジャンプに要する各関節の角度等を、目を皿の様にして一週間追いつづけた。そのお陰で、持病の目パチコを再発し、とんだ予定変更だった。

8月8日に空路メキシコに入り、大学の体育施設、オリンピック会場等を視察して、12日カナダ協会の出迎えを受けバンクーバーに入った。途中メキシコ市のフォマ通りで、文学部3回生の片岡君に逢い、テキイラで乾杯。翌日UB、C、SFUの両大学の体育施設、研究室を訪れたが、体育館の地階を機能的に利用した研究室、柔道場、トレーニング室、実験室、二つの温水プール等が印象的であった。メキシコ、カナダの両大学共に、樹木と芝生に囲まれた、緑と建物との調和のとれた環境の良さが、特に素晴らしかった。

14日に恒例のカナダ体育協会の懇談会に出席し、日本のバレーボールのコーチ制度等について話し合い、翌日、広大な原野を車で走り、講習会場であるクインフィールドに着いた。このウインフィールドはネス湖にネッシーが住むと伝えられている様に、オボゴボと言う海獣が住むと伝えられている、神秘的なオカナガン湖が、視野いっぱいに広がる、風光明媚な所であった。宿舎も前が湖、後がゴルフ場という広大なカナダならではのものであった。

講習会は4泊5日の日程で、朝9時から夜9時迄（カナダの夕暮れは遅い）行い、ジュニア、ハイスクール、一般、ナショナルチームの四部門に分け、延べ25日間の講習期間であった。講師も日、米、仏、ケベック州、開催国カナダと国際色豊かで第一次、第二次、第三次のコーディング・スタッフが今度は第四次講習生となる合理的なシステムがとられた。講習内容は、全体講習（主に招かれた日本の3名で行った）を終え、各チーム単位で実践する方法がとられた。

講習会のことがテレビ、新聞で報道されたために、連日多数の日系の方々が見物に来られ、日系人の家に招待される日も多かった。講習生は、長時間の講習にもかかわらず、勤勉かつ実直であり、特に片時もメモを離さず、熱心に聞き入り、宿舎を訪れ、夜を徹して討論をするカナダのコーチ陣には、カナダ体育協会懇談会での、モントリオールオリンピック向けの大演説以上に心を打たれた。

またいわゆる選手層については14～5才位から素晴らしい体格の女子選手が多く、特に下半身をトレーニングすることによっては、世界的にも相当なレベルに達するであろうと思われたし、男子選手においても、二対近い選手を集めることに、さほどの困難も要しないので、女子選手同様、瞬発力と低い姿勢からの鋭敏な動きが出来れば、ハイレベルに達するであろう。

それにもまして私の心をとらえたことは、参加した講習生達が一日にして百年の知人に逢ったかのような近親感、僅か四日間の講習会でいささかオーバーな身振り、手振りで泣きながら別れの挨拶に来る女子講習生達。人を喜ばすことを決して忘れない心さ、な遣い、人間味溢れる親切心、すべて日本人以上に日本人的なカナダ人であったし、初めての外国選手の指導であったにもかかわらず、そのことすらも忘れさせてくれるような国民であった。いま少し滞在日数があればと思いつつ、帰国の途に。

（文学部助教授・体育）

カナダナショナルチームと筆者（左端）

# 異動

◇足立芳邦（昭17専二商）【大阪府環境保健次長】▽大阪府大島利雄（昭28学一商）【大阪府総務部参予（阪神・高速道路公団）】▽高橋昊三（昭30学二法）▽大阪市収入役室審査課】▽岡田栄典（昭26専二経）【大阪市南区役所税務課】▽岡積勝雄（昭31学一新）【大阪市消防局警備計画課】▽岡本茂夫（昭26専二法）【大阪市大正保健所】▽沓田徳治郎（昭5専経）【税理士】▽奥田宏（昭28学一史）▽豊中市立中豊島小校長】▽奥村覚（昭32学二法）【大阪市南区役所振興課】▽加賀嘉行（昭28学二法）【大阪市立井矢小校長】▽金川憲三郎（昭20大法）▽有家健三（昭27学二国）【菅南田市立木小教頭】▽金森義明（昭33学二史）【大阪市立あいりん中学校教頭】▽川合将陽（昭28学一経）【大阪市中央児童相談所次長】▽川口成光（昭17専一商）【大阪市大淀区役所市民課】▽多田直行（昭5関甲）【㈱大阪ハウジングサービス業務部長】▽川西誠治（昭27学二史）【大阪市立喜連中学校】▽河西善三郎（昭27学一哲）【大阪市立良塚養護学校長】▽河西哲夫（昭34学二法）【大阪市経済局貿易センター】▽河辺留吉郎（昭26専二国）【大阪市立都島中学校長】▽河原政則（昭28学二哲）【大阪市教育研究所】▽喜田四郎（昭29学二英）【大阪市立港晴小校長】▽北口保（昭27学二法）【大阪市市豊崎中校長】▽北野嘉治（昭25学二経）【大阪市清掃局労務課長】▽久保実（昭31学二法）【大阪市市民局更生相談所】▽久保忠明（昭27学二経）【大阪市市民局更生相談所】▽久保実（昭31学二法）【大阪市】▽熊木利隆（昭34学一法）【大阪府議会調査課主幹】▽仁尾常寿（昭4専法）【福利信用金庫常務理事】▽桑鶴喜芳（昭21大経）【大阪市大正区役所主幹】▽小林譲（昭26専二経）【大阪市立大学理学部事務長】▽小松陽之輔（昭25学一法）【姫路中央漆物㈱事務取締役】▽笹倉和忠（昭38学一法）【大阪市会事務局】▽五味重雄（昭18専二経）【大阪市南区役所総務課長】▽河野広次（昭20専二法）【大阪市職員局厚生課長】▽河野益夫（昭5専商）【大阪市交通局協力会副理事】▽左近俊一（昭20二商）【大阪市東成区役所税務課】▽佐々木光男（昭34学二経）【大阪市城東区福祉事務所】▽坂田勇（昭26専二商）【大阪市住吉区役所振興課長】▽沢鳳利勝（昭19専二経）【大阪市立今津中学校長】▽沢義夫（昭13専二法）【都島商事㈱総務部長】▽沢田襄之助（昭15専二商）【大阪市大正区役所総務課長】▽野村修造（昭14専二法）【大阪市西成区役所総務課長】▽清水雅（昭30学二経）【大阪市南第二高校事務長】▽塩谷幸一（昭25専二法）【梅南小学校教頭】▽島祥夫（昭30学二経）【大阪市民生局更生相談所】▽嶋田四郎（昭19専二商）【市立相生中学校教頭】▽下野寅雄（昭27学二英）【寝屋川市立第三中校長】▽下農政市（昭12専二法）▽下元謙（昭29学二法）【大阪市市経済局農畜産課長】▽城内芳方（昭24大法）【大阪市立扇町高校事務長】▽白井三郎（昭38学一法）【大阪市立大学医学部管理課】▽須田博之（昭33学二経）【市立池中学校教頭】▽杉本勲（昭26学一経）【大阪市天王寺区役所保険課長】▽杉本喜良（昭16専二法）【大阪市大淀保健所】▽杉本喬茂（昭26学一法）【大阪市助役局固定資産税課】▽瀬川信成（昭35学一法）【大阪市立経理局管財第一課】▽曽根孝（昭28学一法）【大阪府精神薄弱者更生相談所長】▽東区森之宮西之町六五四府立青少年会館】▽田中嵩（臨16専二商）【大阪市立松虫中学校教頭】▽津村勝次（昭16専二国）【大阪市立玉出中学校長】▽田中義忠（昭27学二法）【大阪市市経理局用地三課】▽多田章（昭25学二哲）【茨田北小学校教頭】▽高田常三郎（昭35学一法）【大阪府商工部総務課】▽滝井茂兵衛（昭5二商）【大阪市民共済会大阪市立藤沢会館長】▽武井政一（昭18専二国）【大阪市立東住吉中学校教頭】▽竹内俊郎（昭24専二法）【大阪市西成区役所市民課】▽塩谷幸一（昭25専二法）【梅南小学校教頭】▽島祥夫（昭30学二経）【大阪市民生局更生相談所】▽嶋田四郎（昭19専二商）【市立相生中学校教頭】▽下野寅雄（昭27学二英）【寝屋川市立第三中校長】▽下農政市（昭12専二法）▽下元謙（昭29学二法）【大阪市市経済局農畜産課長】▽城内芳方（昭24大法）【大阪市立扇町高校事務長】▽白井三郎（昭38学一法）【大阪市立大学医学部管理課】▽須田博之（昭33学二経）【市立池中学校教頭】▽杉本勲（昭26学一経）【大阪市天王寺区役所保険課長】▽杉本喜良（昭16専二法）【大阪市大淀保健所】▽杉本喬茂（昭26学一法）【大阪市助役局固定資産税課】▽山野太一（昭29学二商）【大阪市福島区役所振興課】▽谷浦治（昭19専一商）【大阪市東保健所】▽津山光一郎（昭17専二商）【城北小学校長】▽畑富雄（昭26学二経）【桃谷小学校教頭】▽辻野利郎（昭29学二史）【大阪市立大和田小校長】▽辻脇浮价（昭39学二哲）【大阪市公園部管理課】▽坪内幸好（昭12専二法）【財）愛仁会常務理事兼事務長】▽藤具寛（昭26学一法）【大阪市西成区役所保険課長】▽富本忠夫（昭18専二商）【大阪港鉄鋼共同埠頭㈱総務部長】▽豊嶋正夫（昭16専二経）【大阪市都島区役所税務課長】▽寺田章（昭26専二商）【大阪市北区役所税務課】▽中井茂彦（昭28学二経）【大阪市立新北野中学校長】▽中村明（昭29学一法）【大阪府市病社会保険事務所】▽仲本正毅（臨16専一経）【大阪市西成区役所税務課】▽長尾健司（昭31学二法）【大阪市民生局調査課】▽仁木重三（昭28学二英）【大阪市立梅南中学校教頭】▽二宮輝雄（昭19専二国）【東大阪市立三ノ瀬小学校長】▽西雅史（昭25学二法）【東大阪市立成和小教頭】▽西方才智（昭16専二法）【大阪市立木技術協会事務長】▽西島文年（昭26学一政）【高槻市市市長公室長】▽西田保雄（昭29学一法）【大阪府教育委員会事務局社会教育課長代理】▽大浦義雄（昭26学一法）【大阪府建築部住宅開発課】▽大越雄（昭13専一法）【大阪市港区役所市民課長】▽大沢保（昭30学二商）【大阪市経済局金融課】▽大島利雄（昭28学一商）【大阪府総務部参予（阪神・高速道路公団）】▽大島義三（昭28学一法）▽大阪市立第三中校長】▽大阪市立第三中校長】▽大阪市立第三中校長】